

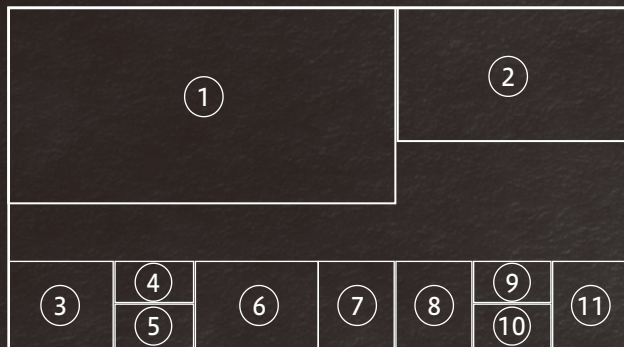


平成30年

子泣き相撲

2月3日、最教寺奥の院で「平成30年子泣き相撲」が開催されました。
先に泣いたほうが勝ちという珍しい取組に、全国各地から1歳前後の赤ちゃんが集結。
熱い戦いが繰り広げられました。その模様取材しましたのでお伝えします。

1_泣いて勝負あり、東の勝ち／2_取組に多く観客が注目／3_泣かないで行司を見つめる赤ちゃん／4_控え室も大混雑／5_我が子をカメラに収めるお父さん／6_多くの観客でごった返す／7_受付に長蛇の列ができる／8_最教寺奥の院の三重塔／9_泣いた赤ちゃんをやさしく見つめる呼び出し／10_ぜんざいコーナーで暖をとる参加者／11_子どもが泣いて親は大喜び



「最教寺奥の院」三重塔の前で開催された「平成30年子泣き相撲」。遠くは東京都からの参加があり、157組（314人）の取組が行われました。

この日は、朝方氷点下まで冷え込むほどの寒さでしたが、順番待ちの先頭に並んだ参加者は、なんと前日の午後9時。そんな参加者もいるなか、会場は寒さに負けないくらい熱気に包まれていました。

鉢巻を締め、法被^{はっぴ}に身を包んだ赤ちゃんが登壇すると、行司の「泣いたが勝ちよ、はっけよい」の合図で取組開始。早速泣き始める赤ちゃんや、両方とも泣かず引き分けに終わる取組もあり、会場に集まった多くの来場者は、盛り上がりを見せる名勝負の数々に大きな声援を送っていました。

また会場では、無料でぜんざいなども振る舞われ、参加者や応援に駆け付けた皆さんの冷えた体を温めました。

